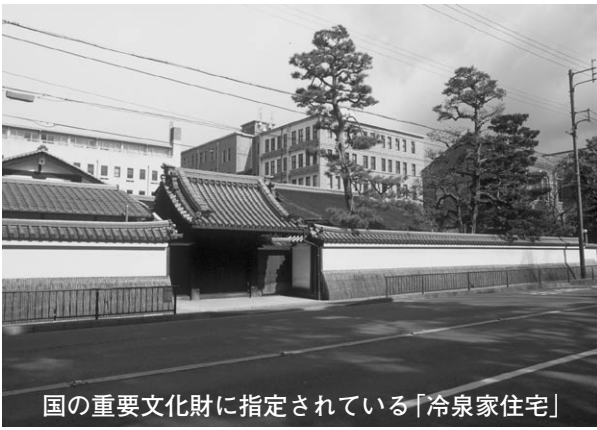


## 俊成の生家「歌の家」冷泉家

俊成を輩出した冷泉家では、古式にしたがった慣習や和歌にかかわる年中行事が現在も営まれています。京都御所の北側、今出川通に南面する冷泉家住宅は、現存最古の公家屋敷として国の重要文化財に指定されています。

蒲郡との交流は昭和6年の千歳神社建立時に始まり、近年では冷泉家の協力により「俊成祭」(昭和61年〜平成11年)や歌会「披講」(平成2年)が開催されました。

俊成の名前を冠した行事として恒例行事となっている全国公募の



国の重要文化財に指定されている「冷泉家住宅」

「蒲郡俊成短歌大会」に加え、今年度は市制55周年を記念して「藤原俊成の里短歌吟行会」も催されました。

また、昨年5月には市民の方を中心とした「藤原俊成顕彰会」も発足しています。

### 「藤原俊成の里 短歌吟行会」

10月4日、竹島周辺で藤原俊成を顕彰する短歌吟行会が行われました。

大賞(蒲郡市長賞)

### 竹島の引き潮に生る砂径に

### 九文三分の足跡印す

岐阜県郡上市 川尻紀美子

当日は、県内外より集まった61人の参加者が、竹島周辺を訪れて心に残ったものを題材に、短歌を詠みました。

大賞を受賞した川尻紀美子さんは、「生まれも育ちも海のなない岐阜県で、いつも海への強い憧れを持っていました。砂浜に印した足跡のように、今日の受賞は忘れられない思い出になりました」と話していました。

## 藤原俊成こそ蒲郡開発の祖

藤原俊成顕彰会 会長 橋本孝明



「蒲郡開発の祖 藤原俊成」と言われても、すぐに納得できる市民の方は少ないのではないかと思います。自分自身もそうでした。

ところが、子ども時代の遊び場であった五井城址の歴史を自分なりに調べていくうちに、俊成と蒲郡に行き着きました。一級資料である鎌倉時代歴史書『吾妻鏡』に経緯が記載されていることを知ったのです。小倉百人一首(撰者は息子の定家)に歌も採りあげられている平安時代後期の代表的歌人である藤原俊成こそ、「蒲郡開発の祖」にふさわしい人物であると確信するようになりました。

江戸時代以降、俊成と蒲郡について多くの先人が研究しており、蒲形荘、竹谷荘、竹島神社、千歳神社、俊成卿屋敷跡、恋の松原、雀が森、都川など、興味深く、なじみのある名前が出てきます。

俊成祭開催、毎年の俊成短歌大会開催など、多くの先輩諸氏が俊成を称える努力をされてきています。藤原俊成卿の立つ俊成苑も竹島園地に整備されました。敬意を表す次第です。

市制55周年の今年、「藤原俊成の里 短歌吟行会」が開催され、あらためて「藤原俊成こそ蒲郡開発の祖」と市内外に顕彰するに最適なスタート年と考えられます。藤原俊成顕彰会も微力を尽くしたいと考えています。